

令和4年 中学部(理科)年間指導計画

教科・領域名		理科	学年	1年	
作成責任者			教育課程・類型	Ⅱ課程A類型-cグループ	
教科観の点目別標	知識及び技能	自然の事物・現象についての基本的な理解を図り、観察、実験などに関する初歩的な技能を身につけるようにする。			
	思考力 判断力 表現力等	簡単な観察、実験を行い、自然の事物、現象について考える力を養う。			
	学びに向かう力 人間性等	自然を愛する心情を養うとともに、学んだことを主体的に日常生活に生かそうとする態度を養う。			
学期	月	時数	単元名	単元の目標	学習内容
一学期	4月 ～ 7月	11	身の回りの生物 「春を見つけよう」 「植物を育てよう」 「夏を見つけよう」	(知及技)身の回りの生命や自然に関心を持つことができる。 (思判表力)植物の栽培や動物の飼育観察を通して気付いたことを表現しようとする。 (学・人)植物の栽培や動物の飼育活動を教師と一緒にすることができる。	・校内を散策し、採取した草花の押し花を作る。 ・植物を栽培しからだのつくりや生長の様子を観察し、記録する。(色、形、大きさ、特徴等) ・動物の飼育・観察や記録(色、形、大きさ、活動の様子等) ・インターネットの活用や野外活動を通していろいろな動物の種類やすみかを調べる。 ・身の回りの夏の生き物や植物と触れ合う体験活動。
			身の回りの生物 「顕微鏡でのぞいてみよう」 「生き物の育ち方には順序があるのかな？」 物と重さ 「ものの重さを比べよう」	(思判表力)教師と一緒に虫眼鏡や顕微鏡を使った観察をし、気付いたことを表現できる。 (知及技)昆虫や植物の育ち方には一定の順序があることを知る。 (学・人)身の回りの生き物や自然に関心を持つ (知及技)教師と一緒に物と重さについて調べることができる。 (思判表力)興味を持って重さの比較をし、気付いたことを表現しようとする。 (学・人)生活の中で重さを意識して協力して活動できる。	・虫眼鏡や顕微鏡を使って、小さな生き物や身近な生き物のからだのつくりを観察する。 ・植物や昆虫の育ち方(飼育・観察や観察記録の活用、視聴覚教材等) ・はかり(天秤)について ・物体の比較の中で「重い」「軽い」を感じる ・好きな形でものの重さを量り、形が変わっても重さが変わらないこと(同じ)を確認する。(粘土やアルミニウムはく等) ・同じ体積(かさ)で色々な種類の物質の重さを比較する。(しおとさとう、飲料水など)
三学期	1月 ～ 3月	10	風やゴムの力の働き 「風で遊ぼう」 「ゴムで遊ぼう」	(学・人)教師と一緒におもちゃをつくって遊ぶことができる。 (知及技)風やゴムの力は、物を動かすことができることに興味を持つことができる。 (思判表力)風やゴムの力の大きさを変えると、物が動く様子も変わることに関心を持って表現できる。	・風で遊ぼう(凧揚げ、風車等) ・風で動くおもちゃで遊び、風が物を動かす力を持っていることを確認する。 ・風の力の大きさと物の動く様子の関係性を調べる。 ・ゴムで遊ぼう(ゴムで動くおもちゃの制作) ・ゴムで動くおもちゃで遊び、ゴムが物を動かす力を持っていることを確認する。 ・ゴムの力の大きさと物の動く様子の関係性を調べる。
年間を通して		身の回りの自然を大切にしている心情を育むために、身近な自然の話題に触れたり、自然観察や体験活動を適宜取り入れる。			
年間授業時数		(35)時間			

令和4年 中学部(理科)年間指導計画

教科・領域名		理科	学年	1年	
作成責任者			教育課程・類型	Ⅱ課程A類型-a・bグループ	
教科観 の点 目別 標	知識及び 技能	自然の事物・現象についての基本的な理解を図り、観察、実験などに関する初歩的な技能を身につけるようにする。			
	思考力 判断力 表現力等	簡単な観察、実験を行い、自然の事物、現象について考える力を養う。			
	学びに 向かう力 人間性等	自然を愛する心情を養うとともに、学んだことを主体的に日常生活に生かそうとする態度を養う。			
学期	月	時数	単元名	単元の目標	学習内容
一 学 期	4 月 ～ 7 月	22	身の回りの生物 「春を見つけよう」 「植物を育てよう」 物と重さ 「ものの重さを比べよう」	(思判表力)生物は、色、形、大きさなど、姿に違いがあることに気付き表現できる。 (学・人)植物の栽培や昆虫の飼育活動を行うことができる。 (思判表力)物は、形が変わっても重さは変わらないことに気付き表現できる。 (知及技)物は、体積が同じでも重さは違うことがあるということがわかる。 (学・人)生活の中で重さを意識して活動できる。	・校内を散策し植物や昆虫などを観察したり、採取した草花の押し花を作成したりする。 ・身近な植物や昆虫について調べ学習(図鑑やインターネットを活用する)を行う。 ・朝顔等の一年生植物を栽培しからだのつくりや生長の様子を観察し、観察ノートにまとめる。(写真、絵、文) ・昆虫の飼育・観察や観察日誌の活用 ・はかり(天秤)の使い方 ・実験を通して、形が変わっても重さが変わらないことを確認する。 ・実験を通して体積は同じでも重さが違うことを確認する。 ・ワークシートでわかったことをまとめる。 ・重さ(質量)の単位を確認する。
	二 学 期	9 月 ～ 12 月	28	身の回りの生物 「顕微鏡でのぞいてみよう」 「生き物の育ち方には順序があるのかな？」 光や音の性質 「鏡を使って日光で遊ぼう」 「音が出るものは、ふるえているの？」 「糸電話をつくってみよう」	(知及技)虫眼鏡や顕微鏡を使って、小さな生き物や身近な生き物のからだのつくりを観察することができる。 (思判表力)昆虫や植物の育ち方には一定の順序があることに気付く。 (学・人)身の回りの生物の飼育観察等を通して自然を大切にしようとする。 (知及技)日光は直進することがわかる。 (思判表力)物に日光を当てると、物の明るさや暖かさが変わることに気付き表現する。 (思判表力)物から音が出るとき、物は震えていることや音の大きさを変えると振動の仕方に違いがあることに気付き表現することができる。 (知及技)調べた事や分かったことを記録したり、表にまとめることができる
三 学 期	1 月 ～ 3 月	20	風やゴムの力の働き 「風の力を利用したおもちゃをつくらう」 「ゴムの力を利用したおもちゃをつくらう」	(思判表力)風の力は、物を動かすことができること、また、風の力の大きさを変えると、物が動く様子も変わることにより気付き表現することができる。 (知及技)ゴムの力は、物を動かすことができること、また、ゴムの力の大きさを変えると、物が動く様子も変わることがわかる。	・風で遊ぼう(凧揚げ、風車等) ・風で動くおもちゃで遊び、風が物を動かす力を持っていることを確認する。 ・風の力の大きさと物の動く様子の関係性を調べる。 ・ゴムで遊ぼう(ゴムで動くおもちゃの制作) ・ゴムで動くおもちゃで遊び、ゴムの力が物を動かす力を持っていることを確認する。 ・ゴムの力の大きさと物の動く様子の関係性を調べる。
年間を通して		身の回りの自然を大切に育むために、身近な自然の話題に触れたり、自然観察や体験活動を適宜取り入れる。			
年間授業時数		(70)時間			